

よい豚のもとをたどればよい種豚

国産純粋種豚改良協議会だより



三人寄れば文殊
の知恵。困った時
はみんなで知恵
を出しましょう

第 18 号 2025. 1. 17 発行

謹賀新年

皆様、あけましておめでとうございます。

国産純粋種豚改良協議会もいよいよ、立ち上げから 10 年目を迎えようとしています。

節目の令和 7 年度においては、『国産純粋種豚改良協議会、ここにあり!!』ということでさらに活発な活動に殿組んで参りたいと思います。

今年度もご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。

令和 6 年度 国産純粋種豚改良協議会総会開催

国産純粋種豚改良協議会 令和 6 年度総会が、12 月 18 日(水)、NOC プラザ(新潟県新潟市)にて開催されました。(一部 WEB 参加)

第 8 回目を迎えた総会では、国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構 畜産研究部門食肉用家畜研究領域の石井領域長並びに農林水産省畜産局畜産振興課の和田畜産技術室長(畜産振興課 松田係長代読)から開会のご挨拶をいただいた後、令和 5 年度の事業実績及び収支決算に関する報告、監査結果の報告、令和 6 年度事業計画及び収支予算についての説明があり、全会一致で承認されました。

また、協議会規約第 6 条の改訂について承認後、任期満了に伴う役員改選が行われ、第 5 期役員候補が承認されました。

第 5 期役員候補

役 職	氏 名	所 属	
会 長	木島 敏昭	有限会社 木島農場	新任
副会長	独立行政法人 家畜改良センター 理事	独立行政法人 家畜改良センター	再任
副会長	桑原 康	農事組合法人 富士農場サービス	新任
副会長	京都府養豚協議会		新任
監事	木全 誠	株式会社 シムコ	新任

その後、協議会専用データベースシステムによる協議会遺伝的能力評価、種豚ランキングの公表状況の説明と新たな取り組みとして、令和 7 年度に協議会及び協議会認定銘柄豚キャンペーンを実施することが承認されました。最後に、独立行政法人家畜改良センターの犬塚理事よりご挨拶をいただき、閉会となりました。



司会担当は株式会社山田 B.F の山田文晴氏(右)、議長担当は有限会社星種豚場の星正晃氏(左)。



会場に出席いただいた農水省畜産振興課の松田係長からは現在改訂検討が行われている家畜改良増殖目標について進捗状況他、説明をいただきました。

ご意見大募集します → 令和 7 年度『土用の丑の日』 国産純粋種豚改良協議会 PR キャンペーンについて

総会第 6 号議案として承認されました、令和 7 年度『土用の丑の日』国産純粋種豚改良協議会及び国産純粋種豚改良協議会認定銘柄豚キャンペーンについて、実施方法など皆さまよりお知恵拝借したく、ご意見大募集します。これはうなぎと同様に疲労回復効果のあるビタミン B1 を多く含む豚肉の栄養成分特徴を生かして、国産純粋種豚改良協議会と血統明確な国産純粋種豚から生産されている国産純粋種豚認定銘柄豚について、広く消費者や食肉業界関係者の方に知っていただくイベントを検討しています。

- ・会場を借りて試食販売などのイベント
- ・土用の丑の日を基準とした一定期間、関係店舗などでの消費拡大イベント

例:スタンプラリー、クイズの実施

国産純粋種豚を使って生産される豚肉の消費が我が国の『遺伝資源』維持管理改良に繋がることや、我が国独特の『テーブルミート豚肉』の味を是非広く知っていただきたいと思います。

また、認定銘柄豚申請も絶賛受付中です。自分の生産している豚肉が認定を受けることが出来るかどうか?等の疑問についてもしどしどご連絡ください。

(お問い合わせ先は一番最後に掲載しています!!)

国産純粋種豚改良協議会 令和6年度 功労賞表彰式

国産純粋種豚改良協議会功労賞表彰内規に基づき、功労賞表彰式が開催されました。
新会長の木島敏昭氏より感謝状が手渡されました。
今回の受賞者の方はこちらの皆様です。

有限会社 星種豚場	星 正美
株式会社 山田 B.F	山田 芳男
五十嵐農場	五十嵐 清彦
吉澤種豚場	吉澤 重寛
一般社団法人 日本養豚協会	小磯 孝

※詳しくは配布しました国産純粋種豚改良協議会 令和6年度 功労賞表彰者名簿を御参照下さい。

受賞者の皆様は協議会発足時から積極的に活動に取り組み、協議会を盛り上げて来られました。
第一線の現場からは引退されても御身体を大切になさって、ますますのご活躍を祈念いたします。
引き続き厳しく心広くご指導ご鞭撻をいただきたく、よろしくお願いいたします!!



受賞者の皆様



星正美氏代理 栃木県養豚協会 坂本会長



山田芳男氏



五十嵐清彦氏



吉澤重實氏代理 群馬県養豚協会 横室常務理事



小磯孝氏

そこが親父のこだわりです

～先輩から技術を盗め、失敗を学べ～パネルディスカッション

協議会青年倶楽部の第1回活動として、総会終了後『そこが親父のこだわりです～先輩から技術を盗め、失敗を学べ～パネルディスカッション』が開催されました。青年倶楽部リーダーである木全氏の「先輩ブリーダーのこだわりを文字にしよう」というかねてからの強い思いもあり、今回開催に至りました。木全氏はパネラー紹介の資料冒頭で下記のように思いを述べられています。

7～8年前に同業の近い世代の4名と秘密結社「豚変態の会」を立ち上げ、種豚生産の神髄を後世に残すべく、先輩ブリーダーのこだわりや経験談を文字にしようと企画するもうまくいかず。今回ひょんなことから国純会で実現し、関係者の皆様に本当に感謝申し上げます。この間に鬼籍に入られた方もいらっしゃいますが、本年、農業基本法の改正にともない、改めて「食料安保の観点から、国内で遺伝資源を確保し、純粋種豚の改良体制を維持していくことが重要」とあるという認識を示されました。

今回の企画から、先輩方のさまざまなこだわりや豊富な経験に基づく最終奥義ともいえるものを、国純会青年倶楽部に代表される若手に伝えていくことは非常に重要で、まさに国益に叶うものであります。

今回コーディネーターをお願いした鈴木啓一先生と木全氏により進行されたパネルディスカッションは、とても予定の時間内では終わることのできない濃厚な重みと深み満載で、職人技とも言える技術を持った先輩方からのお話には時として翻訳??も必要でしたが、私たちはその言葉から『テーブルミート』豚肉生産を支えて来た国産純粋種豚の維持改良を学び、実践していく義務があります。

青年倶楽部の活動として、今回のパネルディスカッションでの発言についての疑問や質問を皆様からお待ちしております。次回パネルディスカッションでは、メンバーに消費者や食肉関係従事者にも参加していただき、いただいた疑問や質問に対する回答という形でも議論を深めていきたいと思っております。

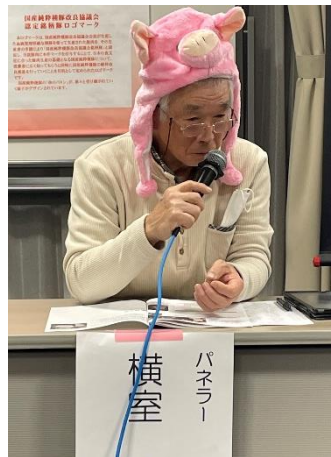
このパネルディスカッションの内容について別紙資料を御参照下さい!!

国産純粋種豚改良協議会青年倶楽部 引き続き大募集中です。

協議会で、ランドレース議論(仮称)をまとめてみませんか?あなたの考えるランドレース種とは?是非、お声をお聞かせください。詳しくは日本養豚協会・湯浅まで



木島 敏昭



変態とは動物の生育過程において形態を変えることを表します。純粋種豚をいかにして我が国の風土と食に合う国産純粋種豚に形態を変えて来た方々の貴重なお話に感謝申し上げます。

部類の豚好きということで、豚の帽子をかぶって参加していただきました!!コーディネーター、パネラーの皆様、御協力ありがとうございました。

コーディネーター	東北大学名誉教授 宮城大学客員教授	鈴木 啓一
コーディネーター	株式会社 シムコ	木全 誠
パネラー	株式会社 山田 B.F	山田 芳男
パネラー	五十嵐農場	五十嵐 清彦
パネラー	有限会社 木島農場	木島 敏昭
パネラー	独立行政法人 家畜改良センター	新 晋二
パネラー	群馬県養豚協会	横室 達弥
パネラー	一般社団法人 日本養豚協会	小磯 孝

ほう...



冒頭にご挨拶を頂いた農研機構・石井領域長からは、協議会も今年で設立 9 年目を迎え、事業成果も出てきている一方、国内外の純粋種の維持供給は減少傾向にあり、特に海外からの純粋種豚の生体、精液導入はブリーダーの減少、アニマルウェルフェア、国際紛争等の影響もありまして今後困難な状況になることが見込まれているからこそ、オールジャパンでの取り組み強化を提言としていただきました。

また、農林水産省和田畜産技術室長からは、本年は農政の憲法といわれる食料・農業・農村基本法が四半世紀ぶりに改正され、本年6月に公布施行されことに伴い、基本法に基づき作成する食料・農業・農村基本計画の他、家畜改良増殖目標、養豚農業の振興に関する基本方針、家畜排せつ物の利用の促進を図るための基本方針などの見直しに向けて、持続的な豚肉生産及び地域社会の維持が可能となるよう検討を行っていること、特に豚の改良増殖目標の畜種別検討会においては国産純粋種豚改良協議会からも委員として参加、議論してもらっており、頂いたご意見も踏まえながら目標には中期的な展望をしっかりと示し、養豚業界の発展に資するものとなるよう尽力してまいりたいと考えていますので、協議会におかれましては将来の豚改良の方向性や養豚産業のあるべき姿などについてご意見を頂戴したい、とご挨拶をいただいています。

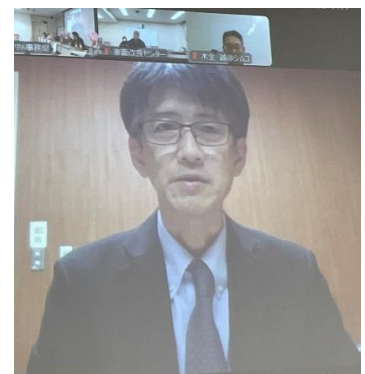
総会閉会のご挨拶をいただいた家畜改良センターの犬塚理事からは、本日の総会においても国産純粋種豚の遺伝的能力評価を用いた改良の推進が重要であり、会員の皆様におかれましては家畜改良センターから情報提供している遺伝的能力評価、種豚ランキングを自農場の選抜淘汰や外部からの種豚導入の一助として大いに活用していただきたいこと、また、信頼性の高い能力評価を行うためには農場間の血縁構築と多くの正確なデータが必要となってくることから、遺伝的能力評価値の信頼度向上を図るため、より多くのデータの提供と共に引き続き協議会内の種豚や精液の交流の促進を進めるよう提言いただきました。

パネルディスカッション終了後、山形県農業総合研究所

養豚センターの五十嵐氏から締めのご挨拶をいただきました。

パネルディスカッションでは特に、諸先輩方の失敗談が参考になったことや日本養豚協会が発行した養豚白書においても国内で遺伝子を維持していくことが喫緊課題として取り上げられていることを踏まえても、協議会の役割が大変重要になってくることから協議会の存在意義をもっと高めていかなくてはという決意の言葉をいただきました。

ご挨拶の中で、筆者が特に課題として受け取ったのは、昨今様々な銘柄豚や豚肉があるが消費者はその自分が食べている豚肉が、どんな種豚から生産されているか、これだけの情報社会であるのにほとんど理解していないという問題点です。これは、純粋種豚を維持管理し改良に取り組む私たちの新たな課題だと痛感しました。早急に取り組んで行きたいと思います!!



山形県農業総合研究所
養豚センター 五十嵐氏

お知らせ

①新規会員・オブザーバーのご紹介

会員として **株式会社 舞豚**(長崎県)

新規オブザーバー会員として **愛媛県農林水産研究所畜産研究センター** 参加です!!

株式会社舞豚は長崎県で代々ブリーダーとして活躍されており、最近では自家生産の豚肉を使った飲食店も地元と都内で経営されています。また、愛媛県農林水産研究所畜産研究センターは愛媛県の銘柄豚肉『甘とろ豚』の止め雄である中ヨークシャーを中心に試験研究されています。中ヨークシャーは我が国でも飼養頭数が減っていますが最近はその特徴ある豚肉に注目が集まっており、我が国の中ヨーク維持改良の中心的な役割を担っていただければと期待します!!

②『種から育てる喜びを!!』種豚改良後継者育成プロジェクト稼働

ブリーダー育成と国産純粋種豚の維持改良啓蒙活動のため、種豚改良後継者育成プロジェクトを開始いたしました。皆様の周りで講習会など開催ご希望の教育機関などございましたら是非御連絡下さい。令和6年度は現在、下記の2箇所で開催しました!!

・埼玉県立熊谷農業高等学校・熊本県立熊本農業高等学校

※東京都立瑞穂農芸高等学校については令和7年2月開催予定

国産純粋種豚改良協議会の現在の会員数は、生産者会員が21名、団体及び試験研究機関会員(学識経験者含む)25名、オブザーバー会員は4名となっています。新規入会、オブザーバー参加へのご相談などお待ちしております!!

国産純粋種豚改良協議会青年倶楽部 引き続き大募集中です。

協議会で、ランドレース議論(仮称)をまとめてみませんか?あなたの考えるランドレース種とは?是非、お声をお聞かせください。詳しくは日本養豚協会・湯浅まで

『種豚・精液、肥育もと豚等の導入・販売でお困りの生産者の皆様へ』 相談窓口を開設しています。

種豚・精液、肥育もと豚等の導入・販売に関してのご要望、ご相談をお受けし、可能な限り対応して参りますので、情報をお寄せいただきますよう、ご協力のほどよろしくお願い致します。

なお、頂いた情報は個人名等を除いた形で他団体等とも共有し、効果的なマッチングを図っていきたいと考えています。つきましては、種豚・精液、肥育もと豚等のマッチング用情報提供用紙を作成しておりますので、事務局までご連絡ください。

また、現状の顧客以外に配布可能な豚等がございましたら、この取組の一助となりますので情報をお寄せいただきますようよろしくお願い致します。(情報提供用紙は日本養豚協会ホームページでも提供しています。)

●お問い合わせ等 窓口：国産純粋種豚改良協議会 又は
(一社)日本養豚協会 改良部

【お願い】

協議会データベースシステムにおける未登録豚のデータ入力について

(独) 家畜改良センター改良部情報分析課

協議会システムにおいて『未登録豚』として成績を入力した後に、登記登録を行い PINS システムにもデータを入力した場合は、重複個体のチェックを行いますので、家畜改良センター情報分析課(門脇)までご報告ください。

背景

- ・協議会評価では、PINS システムと協議会システム両方から抽出されたデータを用いている。
- ・未登録豚の状態、一度協議会システムに入力した個体については、登記登録が取れた後に、PINS に登録すると、評価用データを作成する際に別個体として抽出され、重複が発生してしまう。(別添2)

※現在、このことについてシステム会社と改修検討中。

(参考) システムの設定では、PINS と協議会システムの情報は基本的に紐づいていない。ただし、農場独自番号の欄に耳標を入力した場合のみ、同一個体と認識が可能。

↓【最新】データ入力様式(提出版).xlsx

繁殖成績														【別紙様式1】	
農場独自番号	品種	性別	生年月日	分娩年月日	産次	生仔頭数	死産数	哺育開始頭数	事故・出産子	死産子	生後5日齢生仔頭数(LP5)	3週間育成頭数(離乳頭数)	離乳年月日	文記種品種	農場コード

◎評価精度向上のためには、できるだけ多くのデータが必要となる。そのため、当面の対応としては、データ入力は従来通りに行い、該当データの入力があった際は、情報分析課まで報告してもらい、個別に重複チェックをすることとしたい。

※本データの閲覧方法等については日本養豚協会・堀口(ほりぐち)まで。データに対する詳細については独立行政法人家畜改良センター改良部までお願いいたします。

丈夫で長持ち種豚改良のためにも、**つなぎ評価**を行っていきましょう!!

また、令和4年度総会議案として承認も頂きました新たな取組としての『つなぎ評価』についても随時アナウンスしていきます。国産純粋種豚の能力向上スピードアップのためにもよろしくお願い致します。(改めて資料が必要な方、また『つなぎ評価』の取組手法など問い合わせについては日本養豚協会・家畜改良センター・農研機構まで御連絡下さい。)

もっと増やそう!!国産純粋種豚改良協議会認定銘柄豚

協議会だより第17号にこちら記載しましたが・・・☹☹☹

目指せ100銘柄!!

令和6年度総会で協議会認定銘柄豚ハンドブック発刊を目指せ!!

残念ながら目標達成することができませんでした。国産純粋種豚の維持改良と消費者や食肉関係者へのPRにもなるこの認定銘柄豚をもっと増やしましょう。令和7年度の『土用の丑の日』キャンペーンを大盛況に開催するためにも皆様、よろしくお願いいたします。



協議会からのお知らせ

「国産純粋種豚改良協議会」は
平成28年3月31日、オールジャパンでの種
豚改良を目指して発足しました。只今、会員絶賛
募集中です!!

★令和6年度 種豚導入補助事業 ご案内

一般社団法人 日本養豚協会では令和6年度も種豚導入補助事業の事業実施主体となりました。国産純粋種豚の能力底上げが目標の事業です。本事業は単年度事業ですが、平成26年度から続いている事業で、会員及びオブザーバーの方で事業参加され、積極的に改良のための導入を行って頂きました。生産者間血縁構築にも有効に活用されています。せっかくの補助事業です。協議会の目標達成の為に是非、有効活用しましょう。お問い合わせは日本養豚協会の湯浅までお願いします。

★協議会内部での種豚交流について

改良のスピードアップの、ひとつの指標となる遺伝的能力評価精度向上を図るためには、協議会員間での血縁構築が重要となってきます。是非、会員間で種豚交流を実施しましょう。御連絡いただければ会員にお知らせいたします。是非、公式ホームページ・本だよりもご活用ください!!

★会員、絶賛募集中!!

より多くの種豚生産者に参加していただくことで、国産純粋種豚改良協議会の活動が盛り上がり、かつ、データがたくさん集まり、改良のスピードアップも狙えます。是非、入会をよろしくお願いいたします。協議会認定銘柄豚事業もご活用下さい!!協議会についてのお問い合わせもお待ちしています。

★産肉検定・豚人工授精師資格取得等について

産肉肉質改良のための素材となるデータ測定についても、積極的に実施をお願いしたいところですが測定機器が無いなどのお悩みについて、協議会一丸となって取り組んで行きたいと思っております。また、一般社団法人日本養豚協会 豚産肉能力検定規程の見直し検討を開始しました。皆様には今後、各種データ提供御協力依頼など実施しますので、御協力よろしくお願いいたします。最近非常に問合せが増えております、豚人工授精師資格取得や人工授精の講習会等、皆さんで情報交換を行いたいと思っております。全体で対策を検討したいと思います。

★国産純粋種豚改良協議会だより について

普段なかなか集まることのできない、会員及びオブザーバーの交流の場としても是非ご活用ください。掲載希望

記事や掲載希望コーナーなどの御提案をお待ちしています。事務局までどんどんお寄せ下さい。また、改良に関する質問なども受け付けております。

(例:会員及びオブザーバーの紹介コーナー、会員及びオブザーバーに関するトピックコーナーなど)

**国産純粋種豚改良協議会ホームページにあなたの自慢の種豚の写真を掲載しませんか？
掲載費用は掛かりません!!是非ご連絡ください。**



国内養豚場において豚熱の発生が続いており、さらに野生いのししへの部熱感染も続いていることから、状況は予断を許さない状態です。飼料・資材の価格高騰、世界情勢にも影響を受け各方面の課題も明るい解決の窓口が見えにくい状況です。生産者、関係者の皆様においては心身ともに安らぐ間が少ない状態が長いこと続いてしまっていると思います。協議会は皆様に寄り添い、さらに強固な『皆様の相談窓口』となるべく、支援と様々な手段で情報交換も積極的に行っていきます。

何かお困りごとや御相談ございましたら、お気軽に御連絡下さい。あなたの悩みは、あなたひとりや地域だけの問題ではなく、全国の仲間の抱える悩みです。まずはご一報下さい!!

各種お問い合わせは・・・こちらまで!!

国産純粋種豚改良協議会 お問い合わせ窓口

一般社団法人 日本養豚協会

担当:湯浅・堀口

〒1510053 東京都渋谷区代々木 2-27-15 高栄ビル 2 階

電話:03-3370-5473 FAX:03-3370-7937

国産純粋種豚改良協議会公式ホームページ: <https://buta-kairyo.jp/>

ホームページの QR コードが出来ました
名刺などに入れて御活用ください!!



編集後記

令和6年度の総会は、会員の皆様のご協力により無事終了いたしましたこと、厚く御礼申し上げます。

令和7年度は、国純会が設立して10年目となる節目の年になります。国産純粋種豚の改良と維持活用を促進し、消費者の好む国産豚肉の生産を行う産学官民一体で立ち上げた組織ですが、会員数が中々増えない点が9年間の活動の反省点かと思います。引き続き国純会活動のPRに努め、国内で純粋種を生産しているブリーダーや試験研究機関の参加を増やし組織の強化を図って参りたいと思います。

日本の豚肉は、テーブルミートで消費される割合が高いため、生産性重視の海外ハイブリット豚等とは、もととなる種豚の改良も大きく異なり、めす系品種のランドレース、大ヨークシャーも繁殖性に重きを置きながら、肉質、産肉性の改良を行ってきました。消費者の豚肉嗜好が大きく変わらない限り、今後も改良の方向は新鮮、安心、おいしい国産豚肉を目指していくことになります。

新鮮、安心、おいしい国産豚肉を今後も生産して行くためには、能力の高い純粋種を確保しなければなりません。生産性を重視した海外ハイブリット豚等による豚肉生産が世界的な傾向にあり、純粋種豚を基盤とした豚肉生産を行う国が激減しているため、遺伝資源としての純粋種豚の確保を今後どのようにしていくかが喫緊の課題です。

国際紛争や、アニマルウェルフェア等の関係もあり今後海外から遺伝資源を導入することが困難となることも踏まえ、国純会が中心となって国内のどこに、どんな種豚がいるのかを今一度整理して、国内遺伝資源のデータベースを構築し、国内を中心とした改良、維持、活用を検討していきたいと考えています。

総会後のパネルディスカッション「そこが親父のこだわり」は初めての試みでしたが大変好評でした。令和7年度は、消費者や食肉業界等の関係者に国産豚肉、国純会を知ってもらうイベント開催も計画しておりますので、こんなこともやってほしい等、会員の皆様のご意見、ご要望をぜひお寄せください。

(日本種豚登録協会出身 TK)

